

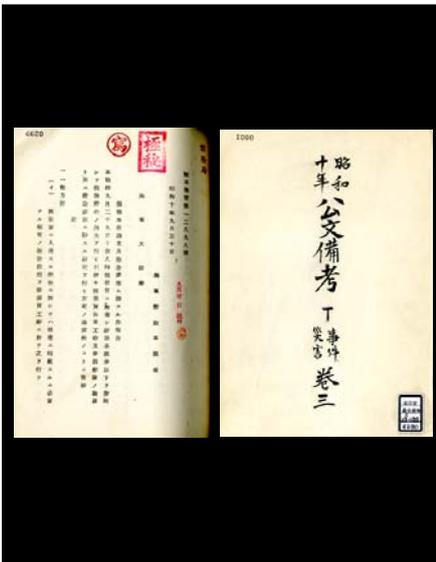
平成 25 年度は、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

なかむら りょうぞう
《 中村 良三 1878～1945年 》
—青森県出身の海軍大将—



第六編機密補輯（登録番号：②一次大戦-8）

中村良三大将は、明治 32 年 12 月、海軍兵学校（27 期）を卒業後、第二艦隊長官、呉鎮守府長官、軍事参議官兼艦政本部長などの要職を歴任しました。「第六編機密補輯」と題するこの史料には、第一次世界大戦中の大正 6 年 1 月、中村中佐が軍令部作戦課長であった頃、イギリスからの日本艦隊の地中海派遣の要請について、軍令部内で賛否両論の議論があったことが記されています。最終的には、ドイツの無制限潜水艦戦に対し、「連合国ハ各方面ニ於テ一層ノ協同努力ヲ要ス」との結論に達し、同年 2 月 10 日、第二特務艦隊の地中海派遣が決定されました。約 1 年半の派遣期間中、ドイツ潜水艦と 34 回交戦し、788 隻の艦船を護衛、約 70 万人の輸送に貢献した日本艦隊は、連合国側の期待に大きく応えました（他に「第二特務艦隊任務奏上」登録番号：⑩その他 T8-22-22）。



損傷事故調査及応急処理に関する件（登録番号：公文備考-S10-166-4980）

昭和 10 年 9 月 26 日、海軍大演習中の第四艦隊が、襟裳岬沖 200 海里の太平洋上で風速 71.5 メートルという大暴風雨に遭遇し、84 名の死傷者と波浪の衝撃による多数の船体の切断等、海軍がいまだかつて経験したことのない大遭難事件、いわゆる「第四艦隊事件」が発生しました。この史料は、当時海軍艦政本部長であった中村大將が、横須賀港に入港した損傷艦船の調査を行い、関係各部長や横須賀海軍工廠、第四艦隊の職員と共に爾後の応急処置について研究した結果を海軍大臣に報告した「損傷事故調査及応急処理ニ関スル件」（昭和 10 年 9 月 30 日付）です。「第四艦隊事件」は、前年の昭和 9 年 3 月に起きた水雷艇「友鶴」転覆に続く海軍の装備上の欠陥を露呈した事件でしたが、事故原因の究明と各艦の補強工事によって、艦艇の安全性が向上しました。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課

専用線：8-67-6522、6588（史料紹介コーナーのみ6668）

外線：03-3713-5912

FAX：03-3713-6149

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>